



# ほんだ

新発田市立本田小学校

## お互いの温かい心が伝わりますように

生活指導主任 内田則子

当校では、子どもの豊かな心の育成を図るために、縦割り班活動の充実を図ること、「思いやり」のある言葉遣いの徹底、同和教育を中核とした人権教育の推進を、重点内容として設定し取組を進めています。本号では、それらの取組の一つである「思いやり」のある言葉遣いの徹底について、10月の取組を例にご紹介します。

10月の生活目標は、「相手の立場や気持ちを考えて行動しよう」でした。全校朝会で、AさんとBさんのやりとりの場面を、学校職員が子どもたちに寸劇で紹介しました。

Aさんは、算数の問題を解いています。早く問題を解き終わったBさんは、なかなか問題が解けずに困っているAさんに気が付きました。

Bさんは、「これ難しいよね。教えてあげる。これとこれを足すとできるんだよ。」と言って。Bさんに問題の解き方を教えました。

Bさんの声掛けは、一見、思いやりのある優しい言葉に聞こえます。Bさんは、Aさんを助ける気持ちで教えたようです。寸劇を見た子どもたちも、みんなAさんはBさんによいことをしたと考えました。しかしこの時、Aさんは「もう少しで分かりそうだったから頑張って考えていたのに。自分の力で問題を解きたかったのに。Aさんが教えたから、少し悲しい。」と思っていたのです。

Bさんは、どのように声をかけたらよかったのでしょうか。そして、Aさんはどのように返答すればよかったのでしょうか。

Bさん：「この問題難しいよね。やり方を教えようか。」

Aさん：「ありがとう。でも、もう少しでできそうなんだ。頑張って考えてみるね。」

例えば、こういったやり取りがあれば、互いに気持ちよく関わりをもつことができたのかもしれない。相手のことを考えてとった行動が、温かい気持ちとして伝わらない場合があるのが、人間関係の難しいところです。大切なことは、相手の気持ちを理解しよう、寄り添おうとする気持ちと、その気持ちを相手に伝える行動です。「相手にとってよかれと思うことが、必ずしも相手が求めていることとは限らない」という心構えをもって、相手とかかわることの必要性を、寸劇を通して子どもたちに伝えたかったわけです。

11月の生活目標は、「みんなで助け合い、協力し合おう」です。これから、児童会行事「本田スマイル祭り」があります。縦割り班を中心に出店を企画し合うこのイベントは、子どもたちの楽しみの一つです。全校児童がそれぞれの立場で、相手を思いやり、気持ちを行動で伝え合える姿が見られることを期待して、支援していきたいと考えています。

# 閉校記念式典を挙りました

10月11日（日）青空のもと、下妻副市長様をはじめ、歴代校長先生や地域の来賓、保護者の皆様にご参加いただき、閉校記念式典、記念碑除幕式を行いました。147年の歴史に思いを馳せながら、これからの新しい一歩を力強く踏み出そうという気持ちが溢れる式典となりました。感染症対策のため、やむを得ず式典に参加できなかった皆様には、YouTube ライブ中継を配信し、式典の模様を視聴していただきました。



全校児童による「惜別の言葉」の発表



来賓の代表による記念碑の除幕式

# 本田小最後の運動会を行いました

10月24日（土）『本田小魂・全力疾走～次への新たなスタートライン～』をスローガンに、本田小学校最後の運動会「ありがとう本田小ファイナル Sports day」を行いました。感染症対策を講じながらも、子ども、保護者、地域の皆さんが運動会を楽しめるよう、工夫を凝らして実施しました。開会式に先立って、閉校を記念するセレモニー「地域の皆さんとつなぐ聖火リレー」「未来への思いと願いを大空へ放つバルーンリリース」を行いました。運動会の途中、降雨のため中断し、26日（月）に、土曜日にできなかった種目競技を引き続き行いました。一人一人が自分のもつ力を存分に発揮し、心に残る運動会となりました。



本田の大空をたくさんの風船が飛んでいきました



聖火を手にした各組の応援団長が聖火台へ進みます